2021

感染対策マニュアル

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
災害対策室

-目次-

Ⅰ　感染症の基本知識

（1）感染のしくみ……1
（2）感染経路……1
（3）感染対策の基本……1

Ⅱ　感染対策のポイント

（1）手洗い・手指消毒……2
（2）せきエチケット・マスク着用……3
（3）防護服の着用・吐物処理……3-4
（4）定期的な換気……5
（5）その他……5

Ⅲ　感染症が発生したら

（1）発生状況の把握……6
（2）感染拡大の防止……6
（3）関係機関への連絡……6

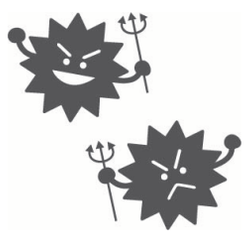
付録　新型コロナ・ウイルスの感染対策

（1）コロナ禍での感染対策……7
（2）礼拝・聖餐式の開催について……8

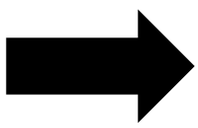
Ⅰ 感染症の基本知識

（1）感染のしくみ

感染とは、病原体（細菌やウイルスなど）が体の中に入り込み、増えることです。感染は、3要素（①感染源②感染経路③感受性のある人）によって引き起こされます。



病原体



感染経路

感受性のある人
（感染を受ける可能性のある人）

（2）感染経路

感染経路には、主に経口感染、接触感染、飛沫感染、空気感染があります。

経口感染	ウイルスや細菌に汚染された食べ物を食べることによって感染する 代表例）ノロウルス、腸管出血性大腸菌（0157）、アメーバ赤痢
接触感染	感染者（源）に直接接触することによって感染する 代表例）ノロウイルス、伝染性膿痂疹、流行性角結膜炎、新型コロナ・ウイルス
飛沫感染	咳やくしゃみで飛び散ったしぶき（飛沫）を吸い込むことによって感染する 代表例）インフルエンザ、百日咳、風疹、新型コロナ・ウイルス
空気感染	空気中を漂う微細な粒子（飛沫核）を吸い込むことによって感染する 代表例）結核、麻疹、水痘

（3）感染対策の基本

感染対策の基本は、病原体を排除すること、感染経路を遮断すること、そして、私たちが適切な栄養や睡眠、ワクチン接種等を通して免疫力を向上させることです。

Ⅱ 感染対策のポイント

感染症予防の基本的な対応として**標準予防策**が大切です。

標準予防策(スタンダードプリコーション)

「誰もが**何らかの感染症を持っている可能性**がある」と考えて、「感染の可能性のあるもの」への接触を最小限にすることで、感染の危険を少なくする方法

「**感染の可能性のあるもの**」…血液、体液、汗を除く分泌液(痰、唾液、 鼻水、目やに、母乳)、排泄物(尿、便、吐物)、傷や湿疹等がある皮膚、粘膜(口・鼻の中、肛門、陰部)等

（1）手洗い・手指消毒

感染対策として最も大切なことは**手洗い**です。手洗いがすぐにできない状況では、アルコールでの**手指消毒**をするようにしましょう。正しい手洗いを身につけて、手や指についたウイルスをしっかりと洗い流しましょう。

石けんで洗い終わったら、十分に水で洗い流し、マイハンカチやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。その後にアルコール手指消毒をすると、さらに効果的です。

参考：「正しい手の洗い方」厚生労働省資料

Ⅱ 感染対策のポイント

（2）せきエチケット・マスク着用

咳やくしゃみの飛沫により感染する感染症は数多くあります。
他人に感染させないためにもせきエチケットを身に付けましょう。

1. マスクを着用する
2. ティッシュ・ハンカチで口や鼻をおおう
3. 上着の内側や袖（そで）でおおう

（3）防護服の着用

必要に応じて防護服を着用することが大切です。血液や体液、分泌液（痰、唾液、鼻水）、嘔吐物、排泄物等を扱う場合は、マスクに加えて手袋やガウン、ゴーグルあるいはフェイスシールド、キャップ等を使用するようにしましょう。使用する物は使い捨てのものが望ましいです。

・インフルエンザ等の飛沫感染の疑いがある場合	マスク 手袋
・嘔吐物・排泄物を扱う場合 ・衣類が汚れる可能性のある場合 ・顔への飛散の可能性のある場合は、ゴーグルあるいはフェイスシールド、キャップを着用すること	マスク 手袋 ガウン
・新型コロナ・ウイルスの陽性者の対応をする場合 ・麻疹や水痘等の空気感染の恐れがある場合	N95マスク 手袋 ﾌｪｲｽｼｰﾙﾄﾞ ガウン

防護服（見本）

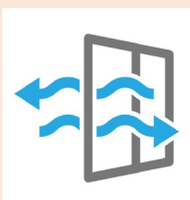
Ⅱ 感染対策のポイント

吐物処理のしかた

準備するもの

使い捨て手袋、マスク、エプロンあるいはガウン、拭き取るための布やペーパタオル、ビニール袋、次亜塩素酸ナトリウム(ハイター)、バケツ

① 使い捨て手袋・マスク・エプロンあるいはガウンを着用します
換気のため窓を開けましょう



② 吐物は使い捨ての布やペーパータオルで、挟み込むように静かに拭い取り、ビニール袋に入れて速やかに処分します

③ 吐物が付着していた床とその周囲をハイターを染み込ませた布とペーパータオルで覆うか、浸すように拭きます

④ 10分後程度経ったら水拭きします

⑤ 使用した着衣は廃棄が望ましいですが、消毒する場合は下記の手順で行います

1 手袋着用して付着した吐物を取り除く
2 熱湯につけるか、0.02%次亜塩素酸ナトリウムに30～60分つける
3 他のものと別にして洗濯機等で洗濯する

⑥ 手袋は、吐物が飛び散らないように表面を包み込むように裏返して外します。使用した布やペーパータオルと一緒に処分します。処分後、流水で手洗いしましょう。

参考：東京都福祉保健局資料「ノロウイルス対応標準マニュアル」

例)消毒液の作り方 -キッチンハイターの場合-

消毒対象	濃度(希釈倍率)	希釈方法
○ 吐物・排泄物で汚染された便座や床等 ○ 感染者が触れた手すりやドアノブ等	0.1%濃度	500mlのペットボトル1本に対し、5ml(キャップ2杯分)
○ 吐物・排泄物で汚染された衣類等の漬け置き ○ 通常の物品の消毒・床の清掃等	0.02%濃度	500mlのペットボトル1本に対し、約2ml(キャップ半分)

Ⅱ 感染対策のポイント

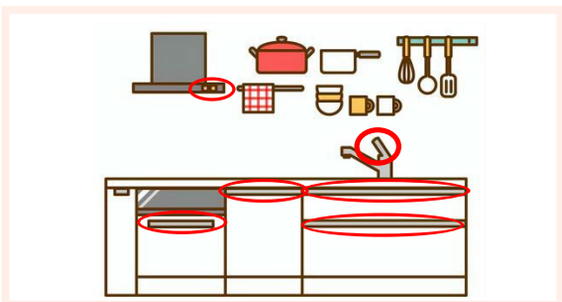
（4）定期的な換気

３密（密閉・密集・密接）を避けましょう。そして、定期的に換気をするように心がけましょう。換気の頻度は、１時間に２回以上（３０分に１回以上）が推奨されています（厚生労働省）。５分程度、窓を全開するようにしましょう。

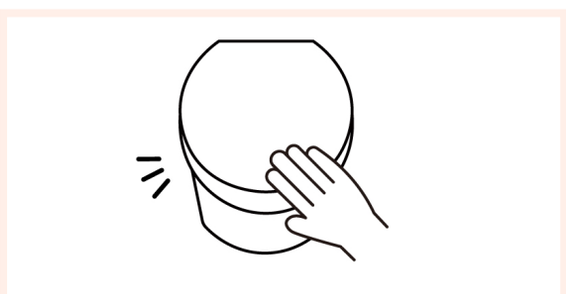
（5）その他

感染が起こりやすい場所としてトイレとキッチンがあげられます。いつもキレイにするようにしましょう。特に下記のことを注意しましょう。

スイッチや便座等、よく触れる場所のアルコール消毒を行う

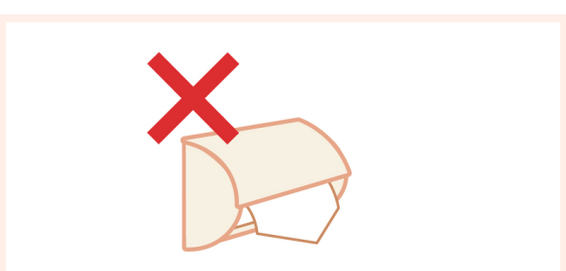


調理台や冷蔵庫の取手等、よく触れる場所のアルコール消毒を行う



トイレ後はフタを閉めてから水を流す
（菌が飛び散ってしまう危険があります）

調理前の手洗いを徹底し、可能な限りマスクと使い捨ての手袋を着用して料理する



トイレ後三角折はしない
（汚れた手で触ることで感染性が高まります）

使用後のまな板や包丁等を熱湯消毒する
消毒後はしっかりと乾燥させる

Ⅲ 感染症が発生したら

（1）発生状況の把握

教会及び伝道所において、感染症が疑われる事例が発生した際には、感染の拡大を防止するために早期対応が大切です。

症状の確認	発熱・悪寒、だるさ、関節痛、吐き気、腹痛、下痢、息苦しさ、発疹等
状況の把握	a. 日時、場所等の発症状況 b. 感染者の受診状況、診断名、検査結果及び治療内容

（2）感染拡大の防止

関係者への周知	感染症等の発生状況を関係者に周知する。接触者の健康管理を行う。
感染拡大防止策	a. 手洗い、排泄物・嘔吐物の処理を徹底する b. 消毒の頻度を増やすなど、発生状況に応じて教会内の消毒を実施する c. 感染症に応じて、感染者の礼拝出席等を検討する

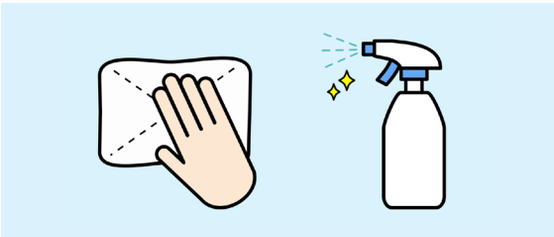
（3）関係機関への連絡

保健所への報告	新型コロナ・ウイルスをはじめ、保健所への報告が必要な感染症があります（下記のリンク参照）。不安に感じる時は、各自治体の保健所に相談するようにしましょう。
教団への報告	理事会（総務局長あるいは事務局長）に報告し、指示に従う。

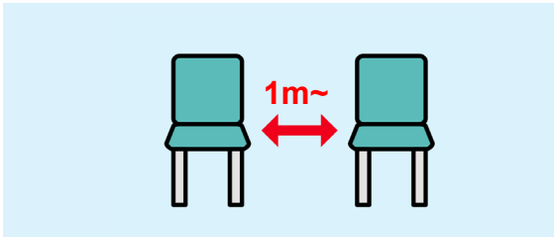
届出が必要な感染症の種類（厚生労働省）→

付録 新型コロナ・ウイルスの感染対策

（1）コロナ禍での感染対策

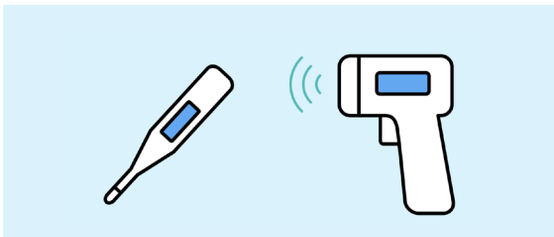


ドアノブや手すり、スイッチ、PC等、
よく触れる場所のアルコール消毒を行う

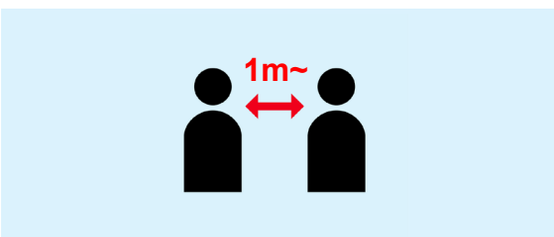


座席や椅子の間隔を最低1m以上できれば
2m以上空ける

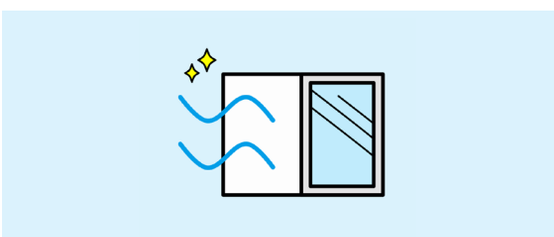
教会の出入りの際には、マスク着用・
手洗い・アルコールによる手指消毒を
徹底する



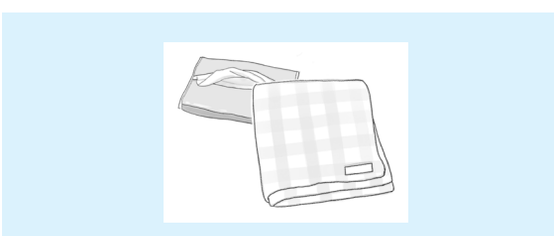
感染が拡大している地域では検温を実
施する（自宅で体温測定して来会する
か、非接触型検温器を使用する）



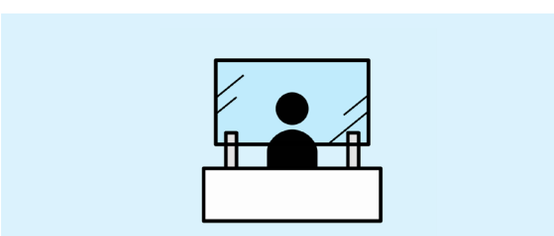
ソーシャルディスタンスを保ち、握手や
ハグのような身体的接触をしない



ドアや窓を開けるなどをして換気をこまめ
にに行う(30分に一回以上)



トイレのタオルの共用はせず、ペーパー
タオルやマイハンカチを使用する



飛沫が飛び散らないようにアクリル板や
サーキュレーター等を使用する

食事の提供や会食の場は可能な限り設け
ない

マイクや楽器等の使い回しをしない
使い回しする場合はその度に消毒する

付録 新型コロナ・ウイルスの感染対策

（2）礼拝・聖餐式の開催について

地域の自治体が出す「感染対策ガイドライン」を随時確認し、それに準じた対応を検討し実施するようにしましょう。
感染が拡大している地域は下記の対応を検討してみてください。

分散礼拝	・礼拝の回数を増やして出席者数を分散させる ・礼拝出席者を2チームに分けて、オンライン礼拝と教会での礼拝を交互に参加してもらう
オンライン礼拝	・YouTubeやSNS等で礼拝を配信する ・ZoomやGoogle Meet等を使用してオンライン上で集まって礼拝を行う ・オンライン礼拝に参加できない方への対応として、礼拝DVDや礼拝CD、説教の要約等を郵送する
聖餐式	・教会での礼拝が再開するまで中止する ・聖餐式を行う際は、感染対策を工夫して実施する ・使い捨ての容器を使用して、その都度捨てるのが望ましい

参考:教団の新型コロナウイルス（COVID-19）対策ガイドライン

災害対策室編「感染症対策マニュアル」

発行者　日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

東京都豊島区駒込３－１５－２０

発行日　2021年7月1日

Assemblies of God
JAPAN

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
災害対策室